

2017年度 中央大学ボランティアセンター報告書



Contents

刊行によせて

学生部長 森 正明.....	4
ボランティアセンター長 中澤 秀雄.....	5
ボランティアコーディネーター 開澤 裕美.....	6

活動編

1. 被災地支援ボランティア

はまぎくのつぼみ.....	7
はまらいんや.....	9
面瀬学習支援.....	11
チーム女川.....	13
チームくまもと.....	14

2. 多摩キャンパス

1. 学内ボランティア活動	
「クリーン大作戦・春の陣」.....	16
「クリーン大作戦・秋の陣」.....	17
「クリーン作戦・ミニッツ～30分間のゴミ拾い活動～」.....	18
2. 防災ボランティア活動	
チーム防災.....	19
(1) 中央大学附属中学校 出張授業.....	20
(2) 日野市での地域活動.....	21
3. 地域ボランティア活動	
(1) ユギ里山ファーム.....	22
(2) せせらぎ農園.....	22
(3) 落川交流センター.....	22
(4) 日野新選組まつり.....	22
(5) みんなの遊・友ランド.....	22
(6) みんなと一緒にの運動会.....	23
(7) まちづくり市民フェア.....	23
(8) 夢ふうせんバザー.....	23
(9) スポーツボランティア日野.....	23

3. 後楽園キャンパス

1. りこボラ.....	24
2. 学内ボランティア活動	
(1) 「ボラカフェ@後楽園」.....	26
(2) ボランティアガイダンス+花花花見.....	27
(3) お菓子パーティー.....	27
(4) シン・クリーン大作戦@後楽園.....	27
(5) 防災ゲーム体験会.....	27
(6) 白門祭@後楽園キャンパス.....	27
(7) UN WOMAN 「アイディアソン」.....	28

3. 地域ボランティア	
(1) 新歓ボラ活動 花壇整備.....	29
(2) 防災ゲームDay2017 そなエリア東京.....	29
(3) RUN伴.....	29
(4) 文京ボランティア市民活動まつり.....	29
(5) 文京湯けむりお掃除with漱石.....	29

報告編

4. 学内での活動報告事業	
1. ボランティア活動写真展.....	30
2. キャンパスライフ体験会（父母連絡会）.....	31
5. 学外での活動報告事業	
(1) 大学ボランティア活動写真展.....	32
(2) 防災ゲームDay2017.....	32
(3) 日本財団学生ボランティアセンター報告会.....	32
(4) 「大学生ボランティア活動報告パネル展&防災イベント」報告.....	33

学び編

6. 入門	
1. ボランティア講座	
【多摩】	
(1) 公務員になりたい人のためのボランティア講座.....	35
(2) 地域発見！公務員と巡る五感で感じるバスツアー.....	36
(3) ボランティア体験×学び 振り返りワークショップ.....	37
(4) 春休み、一步踏み出したいアナタのためのボランティア講座.....	38
(5) 文学部ボランティア論.....	39
【後樂園】	
(1) 理工学部新入生ガイダンス.....	40
(2) 理工学部オリエンテーション.....	41
(3) 「理工（後期）オリエンテーション」実施報告.....	42
2. ボラカフェ.....	43
7. スキルアップ	
1. 「傾聴講座」.....	44
2. 神戸スタディツアー.....	45
8. 防災・災害	
1. 災害救援ボランティア講座.....	46
2. 「チーム防災」学内活動報告.....	47
3. 「チーム防災」×学友会所属学生合同防災訓練.....	48
4. 学生×教職員合同K地区防災研修.....	49

資料編

9. 表彰状受賞学生	50
10. ボランティアセンター 利用集計	51
11. ボランティアセンターの取組記録	52
12. 協定・助成金	54
13. メディア掲載	
1. 大学関係広報誌	55
2. 新聞記事・広報誌等	56
3. メディア放送	57
14. 作成物掲載	
1. 刊行物	58
2. ポスター・チラシ	58
15. ボランティアセンター組織規約	
中央大学ボランティアセンター及びボランティアセンター運営委員会設置要綱	59
2017年度ボランティアセンター運営委員	60
2017年度ボランティアセンター公認学生団体 顧問	60
ボランティア情報の取扱に関する方針	61
団体登録シート	63

学生部長 森 正明



2017年度もボランティアセンター（以下、ボラセン）では、所属する学生たちと教職員、地域の方々の協力により、昨年をうわまわる活動を行ってまいりました。

現在、はまぎくのつぼみ、はまらいんや、面瀬学習支援、チーム女川、チームくまもと、チーム防災、りこボラなどのチームに分かれてチームごとの活動拠点を持っています。こうしたチームは、単に現地での活動だけに重点を置いているだけではなく、大学において様々な角度からどのようなニーズにあった支援ができるのか、現地の新たなニーズや現状分析を行い、チーム所属の学生たちによる日頃の資料収集や討論などをベースに検討し、単年度ごとのテーマを設定して現場でのボランティア活動が行われています。詳細については、毎年の年間報告書やホームページに掲載されていますのでご参照ください。

また学内においては、「傾聴講座」などを実施している『ボランティア育成プログラム』、『災害救援ボランティア講座』には、「上級救命技能講習」や「AED利用講習会」などがあり、様々な災害や防災に役立つ講習会などを行ってきました。

これまで、こうした活動に対して学内での表彰や学外からの奨学金支援など高い評価も受けてきています。本年度は、熊本市より平成28年熊本地震感謝状を頂いた他、学員会会長賞、学員会奨励賞などを受賞いたしました。

2018年3月には、これまでの活動の集大成として「ボランティアセンター設立5周年記念シンポジウム」を開催いたしました。

4月からは、これまでの成果にプラスするかたちでさらなる発展を目指して、中大ボラセンの活動が新入生を迎え新たにスタートいたします。

多くの方々のこれまで以上の協力、これまで以上の期待を集めてボラセン活動を推進していただきたいと思います。

中大ボラセンここにあり。さらなる活躍を期待します。

■森 正明（もり・まさあき）

（中央大学文学部教授 専門分野／体育学、スポーツ社会学）

福岡県（博多）出身、1952年生まれ。1976年中央大学文学部（社会学専攻）を卒業し、1978年順天堂大学体育学部大学院修了（体育社会学）。1988年より中央大学に勤務し、2002年より中央大学文学部教授（スポーツ社会学）、現在に至る。30歳まで、全日本7人制ラグビー大会に出場していたラグーマンであり、オーストラリアやニュージーランドのスポーツ文化に触れた経験から、祭の組織とスポーツクラブ組織に関して研究を行ってきた。

2014年から学長専門員（スポーツ振興担当）。2020オリ・パラ会合に出席。大学連携の中大開催を熱望する、小学校以来の自称「オリンピック博士」。

ボランティアセンター長 中澤 秀雄



2017年度のボランティアセンター活動報告書をお届けいたします。毎年のことではありませんが、活動を支えて下さる皆様に心より感謝を申し上げます。学生の現場での活動という花が咲いているのは、第一に受け入れて下さる地域の皆様のご理解あってこそです。東北・熊本の後援地、多摩・後楽園の各キャンパスの地元の市民・行政・企業・NPO・学校・各種団体の皆様、神戸でご指導下さる皆様、いつもありがとうございます。資金的には、学員会およびGAKUVOの継続的なご支援という基盤のもとに、各種助成金にも応募し、今年度は赤い羽根募金（ボラサポ九州）およびYahoo!基金様からグラントを得ることができました。

学内的には5年間の活動基盤であった「教育力向上推進事業」が終了し、来年度からは学生部の通常予算でボランティアセンターを運営していかねばなりません。残念ながら予算査定の結果は思わしくなく、次年度は「守り」の運営を強いられることになりました。ボランティアセンター来談者数・ボランティアセンタールーム利用者数は増加しているのですが、コーディネーター1名体制で対応しているため、新たな企画を立てることもできず、ボランティア参加者数は今年度頭打ちで推移した現状があります。中央大学の仕組み上、教職員の皆様からひろくご理解いただかない限り、ボランティアセンターの展望は開けません。学内の皆様、ご批判・ご意見も含めてボランティアセンターにご関心を持って頂けますよう、心よりお願い申し上げます。ボランティアセンターの活動は単に沢山ある課外活動の一つではなく、私学助成やブランド価値向上、入学者獲得、就職実績等の経路を通じて大学の経営資源に結びついていると私どもは理解しています。

このような状況下で公認学生団体を中心に学生たちが奮闘し、ひろく学外から評価いただいている事実が、私どもの支えです。事前事後レポートを読んだ顧問教職員は、その学生の1年次の姿と比較した成長ぶりに、いつも驚かされています。ボランティアセンターの実践は、アクティブ・ラーニングのノウハウの蓄積に他ならないのです。この成果を学内に波及できるよう、センターとしても発信に努めるとともに、より多くの教職員の皆様の関与を、重ねてお願い申し上げます。2018年3月16日に開催したシンポジウムを、その第一歩と位置づけたいと存じます。何とぞよろしくお願い申し上げます。

■中澤 秀雄

（法学部教授 専門分野／政治社会学・地域社会学）

東京都出身。1994年東京大学卒。2001年東京大学から博士（社会学）の学位を取得。札幌学院大学社会情報学部講師、千葉大学文学部准教授を経て2009年から現職。日本社会学会、地域社会学会等に所属。主著は新潟県の問題を扱った『住民投票運動とローカルレジーム』（ハーベスト社）や廃棄物・原子力・環境文化等のテーマを幅広く扱った『環境の社会学』（共著、有斐閣）など。前者により第5回日本社会学会奨励賞、第32回東京市政調査会藤田賞などを受賞。2012年4月1日より学生部ボランティア担当委員に就任。

ボランティアコーディネーター 開澤 裕美



ボランティアセンター設立5年目となる2017年度の報告書を、皆さまにお届けいたします。この区切りとなる5周年を迎え、2018年3月16日には、シンポジウムを開催することができました。設立以来走り続けてきた5年間、ここに至るまで、本当に多くの皆さまから多大なご支援を賜り、ここまで来られたと肌身で実感いたしております。皆さまに改めて感謝し、心より御礼を申し上げます。

2017年度を振り返ると、ボランティアセンターも関わっている初めての正課授業である文学部「ボランティア論」の開始に始まり、約140人ほどが所属するボランティアセンター公認学生団体の一体感を高めるための新たな試みの実施に加え、後樂園キャンパスで活動する公認学生団体「りこボラ！」の活躍など、様々なトピックが挙げられます。公認学生団体のメンバー自らが、様々な協力者を求め、助成金や補助金などに積極的に挑戦し、実績をあげられたことも新たな取り組みでした。

20歳前後という、人生で大事な時期をいかに過ごすか。何かのきっかけでボランティアに出会った学生たちの成長・変容を目のあたりにできること、私自身喜びを感じている毎日です。ただ、まだまだ大学ボランティアセンターとしてやりたいこと、できることは山のようにあります。社会課題が山積している中、NPOの方々や現場で汗を流している皆さん、地域の方々にもっともっと直に会って欲しい、学んで欲しいと、力不足を実感しています。

今後も、社会の課題を自ら発見し、現場へ足を運ぶことで「他人事」を「自分事」としてとらえ、自分のできることから柔軟に取り組んでいく。そんな草の根となり社会を創造的に築いていける人財を育てられるセンターであるべく、尽力してまいりたいと思います。

■開澤 裕美

(中央大学ボランティアセンター コーディネーター)

京都府宇治市出身、同志社大学法学部政治学科卒業。国際ボランティア活動を企画・運営するNPO法人で関西事務局を立ち上げた後、CSR（企業の社会的責任）のコンサルタントを経て、2015年4月より現職。NPO法人NICE（日本国際ワークキャンプセンター）副代表・理事も務める。

1. 被災地支援ボランティア

団体の紹介：はまぎくのはつぼみ

理念

私たち「はまぎくのはつぼみ」は岩手県宮古市を拠点として活動しています。「はまぎく」とは宮古市の花であり、花言葉は「逆境に立ち向かう」です。宮古市は過去に数回津波の被害を受けてきましたが、その度に立ち上がり、東日本大震災にも屈することなく、復興を遂げようとしています。団体メンバーひとりひとりが「宮古の未来のために学生の自分たちには何ができるのか」を真剣に考え、自分の意見を出してみんなで話し合い、復興のお手伝いをしています。「つぼみ」は団体メンバーや活動参加者ひとりひとりを表しています。一人の力は小さなものですが、みんなの力を合わせることで、いつの日か宮古に満開の花が沢山咲くことを願っている、という思いがこの団体名に込められています。

現在、震災から年月が経ち、復興への思いや防災の大切さも風化してきています。私たちは、現地で震災当時や現在の復興の状況、防災について学び、学童の子どもたちや公営住宅の方々と交流し、それを物産展やSNS、報告会などで発信することで、震災を忘れることなく将来に繋げていきたいと思っています。このような思いを忘れず、支援してくださる方々への感謝とともに、私たちは活動しています。

活動場所

岩手県宮古市

代表者

今野陽介（総合政策学部2年）

所属メンバー

吉田沙織（法学部4年）原ゆり子（法学部4年）、田中瑠海（商学部3年）、岩元理佐子（法学部3年）、寺崎友莉（法学部3年）、奥野日香梨（法学部3年）、木下卓哉（商学部3年）、伊志嶺朝希（商学部3年）、佐々木星（文学部3年）、平田祐（文学部3年）、小谷彩夏（文学部3年）、竹内千晴（法学部3年）、山崎弘貴（法学部3年）、横矢亜実（法学部3年）、米光遥（法学部3年）、伊藤啓市（経済学部2年）、糸日谷栞菜（法学部2年）、加藤みすず（文学部2年）、桑田百合子（文学部2年）、高橋俊（法学部2年）、高橋彩（法学部2年）、林莉佳子（法学部2年）、日高あきら（文学部2年）、福原一美（法学部2年）、細川まい（文学部2年）、松井亜美（法学部2年）、峯村雄大（法学部2年）、茂木彩花（文学部2年）、山周平（商学部2年）、佐藤大生（法学部2年）、齋藤桃子（法学部1年）、内木春華（法学部1年）、江口響（法学部1年）、津久井泉実（法学部1年）、楠田安紀子（法学部1年）、新井達也（法学部1年）、岡本祐樹（法学部1年）、山本高大（文学部1年）、石田友也（文学部1年）、矢吹莉音（文学部1年）、鹿又萌々果（文学部1年）、利根川和希（法学部1年）、中里真侑（文学部1年）、坂東美希（商学部1年）、本田穂乃（商学部1年）

活動先・協力先

宮古市役所、宮古市社会福祉協議会、津軽石公民館、鎌ヶ崎学童の家

夏の活動

2017年8月6日～8月10日 14人

2017年8月14日～8月18日 14人

1. 被災地支援ボランティア

2017年9月4日～9月8日 8人

活動内容：学童保育支援、田老地区でのフィールドワーク、鯉ヶ崎小学校でのヒアリング
市役所でのヒアリング、社会福祉協議会でのヒアリング、

物産展販売商品の製造元でのヒアリング、津軽石夏祭りへの参加、学生交流会

支 援 先：中央大学学会、日本財団学生ボランティアセンター、Yahoo!基金

冬の活動

2017年12月25日～12月27日 11人

活動内容：公営住宅の方々との交流会、社会福祉協議会との話し合い

支 援 先：中央大学学会、日本財団学生ボランティアセンター

春の活動

2018年3月4日～3月9日 11人

活動内容：公営住宅の方々との交流会、学童保育支援

市役所でのヒアリング、消防本部でのヒアリング

物産展販売商品の製造元でのヒアリング

支 援 先：中央大学学会、日本財団学生ボランティアセンター

物産展・写真展

2017年10月1日 30人

場所：八王子生活実習所

2017年10月22日 15人

場所：中央大学多摩キャンパス

2017年11月20日～11月24日 30人

場所：中央大学多摩キャンパス 生協店舗1階

2018年2月17日～18日 20人

場所：イオンモール多摩平の森

学習会

前期 回数：30

内容：震災と現地を知る
夏の活動に向けた準備

後期 回数：32

内容：岩手復興支援物産展に向けた取り組み
春、冬の活動に向けた準備



団体の紹介：はまらいんや

理念

震災をきっかけにさまざまな日本社会の問題が露呈しました。その問題は医療、福祉、居住環境まで多岐に渡りますが、被災者の方が必要とするものはそれぞれ違います。本当に人間らしく生きるためには何が必要でしょうか。

極寒の雨漏りする家で暮らせますか？

草が生えてくる家で安心して眠れますか？

暮らしは肉体、精神ともに直接大きな影響を与えます。

周囲に話せる相手がいなかったらどうしますか？

重病の時に自分だけだったらどうしますか？

仮設住宅のような外部と孤立しがちな環境ではコミュニティの場が絶たれ、時に孤独死が発生します。コミュニティ作りとその意地が必要とされ、地域的な結びつきは自立の助けとなります。

私たちの活動や一緒に過ごした時間が少しでも住民の方の支えとなり、震災で傷を受けながらも前を向いて生活できるよう、以下を団体理念として掲げています。

その「人」「地域」「暮らし」に焦点を当てた「人間主役のボランティア」であること、そして住民の方の「今日を生ききる力になること」。「人」「地域」「暮らし」上記3点は、本当に人間らしく生きるために必要なことなのです。

活動場所

宮城県気仙沼市鶴巻二区

代表者

千葉麻由（文学部2年）

所属メンバー

志賀未希（文学部4年）、塚田かえで（文学部4年）、中村香織（文学部4年）、木村亘佑（法学部3年）、白須花恵（法学部3年）、赤間環（法学部3年）、登倉めぐみ（文学部3年）、高本翔太（経済学部3年）、小林可奈（法学部2年）、今野清楓（経済学部2年）、千葉麻由（文学部2年）、田中泉希（経済学部1年）、中富一杜（法学部1年）

活動先・協力先

鶴巻二区自治会長 内海勝行会長

夏の活動

9月7日～9月10日 9人

活動内容：地区内の公園でイベント企画、住宅訪問

支援先：中央大学学員会、Yahoo!基金

冬の活動

12月27日～12月29日 6人

活動内容：住宅訪問

支援先：中央大学学員会

春の活動

3月21日～22日 3人

活動内容：地域組織の方へのヒアリング、住宅訪問

1. 被災地支援ボランティア

支 援 先：中央大学学員

その他活動

事前調査

内容：活動拠点を面瀬仮設住宅から鶴巻二区に移したばかりで地区内の状況の把握が出来てなかった。そこで、住宅訪問を通じて住民の方のお話を伺ったり地域の中を歩いたりして、現地の課題把握を行った。その後の団体の活動方向を定めた。

1年生のための勉強会

内容：初めて活動する1年生に向けて、事前学習を行った。団体の設立経緯や団体の活動理念の背景の説明をした。また、活動場所の新聞から気仙沼の文化・産業と震災当時の様子について1年生に自ら調べてきてもらった。気仙沼スタディーツアーと合わせることで実際の活動をイメージできるようにした。

気仙沼スタディーツアー

内容：面瀬学習支援団体と合同で新入生のための気仙沼スタディーツアーを企画した。気仙沼市議会議員の今川さんから震災当時や復興状況、町の様子のお話を伺いながら、車で市内を回った。実際に自分で被災地を目にし、被災地の課題把握を行った。

傾聴講座

内容：お茶会や訪問活動など住民の方々と向き合ってお話しさせていただくことが多い当団体にとって傾聴の姿勢を身に付けることは極めて重要であるとの事から傾聴講座を能力開発センターの後庵正治先生をお招きして行った。相手の表情や仕草をよく観察してお話を伺うことや、話を聞く際の態度や相槌の打ち方など留意すべき事を教えていただいた。



団体の紹介：面瀬学習支援

理念

～「第3の場」を開き、大学生だからこそできることをする～

- ①学校とも家庭とも違う子どもたちのための場を開く。
- ②子どもたちの将来の選択肢の幅を広げ、気仙沼・面瀬の未来の担い手を育む。

私たちが対象としているのは、面瀬小学校・中学校に通う児童たちです。私たちは2012年から子どもたちがリラックスして勉強したり遊んだりできる場を開いてきました。震災から7年を経た今の気仙沼では日本の抱える問題がより露呈しています。そこで、まずは自分たちが変えていけるところから少しずつ変えていこうと考えました。それは、今までの活動で築いてきた学校や子ども、保護者、地域との信頼関係がある面瀬に継続的に関わり、その地域でわたしたち外の地域から来た大学生にしかできないことをやることです。それが大学のない気仙沼で、子どもたちに学校の先生でも家庭の中の親でもない大学生と関わる場をこれからも開き続ける意味です。

よそから来た大学生にしかできないこととは、自分たちが東京で経験してきたことを話すことにより子どもたちの見聞を広め、将来の選択の幅を広げ、最終的に様々な場面・分野で活躍し、地域の誇りとなるような人を育てる一助となることです。

活動場所

宮城県気仙沼市面瀬地区

代表者

梅森隼（総合政策学部2年）

所属メンバー

田中結衣（文学部4年）、森美紗子（法学部4年）、松本紗季（法学部4年）、大辻みずき（文学部4年）、金野光（経済学部3年）、大谷夏子（文学部3年）、山本純司（商学部3年）、栗原夏海（経済学部3年）、高本翔太（経済学部3年）、村越博行（経済学部3年）、荒瀬可純（文学部3年）、平井翔子（文学部3年）、櫻井里南（文学部3年）、梅森隼（総合政策学部2年）、釘嶋結生（法学部2年）、竹井希実（法学部2年）、常盤真菜（商学部2年）、向山碧杜（法学部2年）、箭内美保（商学部2年）、光多令（法学部2年）板倉志帆（法学部1年）、大野遥菜（総合政策学部1年）、櫻井真子（文学部1年）、松尾怜奈（文学部1年）、松阪恵美里（法学部1年）、山本聖菜（法学部1年）、塩島健太郎（法学部1年）、中川陽平（法学部1年）、門澤龍世（法学部1年）、林凜子（商学部1年）

活動先・協力先

気仙沼市面瀬小学校 浅野亮校長
気仙沼市面瀬小学校 熊谷久恵先生
上沢三区自治会長 高橋紀一氏

夏の活動

8月12日～8月21日 18人
活動内容：学習指導、ふれあい農園、ピクニック・ごみ拾い、お楽しみ会
支援先：中央大学学員会、Yahoo!基金

冬の活動

12月23日～12月29日 17人

1. 被災地支援ボランティア

活動内容：学習指導、ふれあい農園、クリスマスパーティ、お楽しみ会
支 援 先：中央大学学生会

春の活動

3月23日～3月30日 12人

活動内容：学習指導、ふれあい農園、お楽しみ会
支 援 先：中央大学学生会

事前調査

5月30日～31日 10人

内容：夏季ボランティア活動の事前調査
ヒアリング先：面瀬小学校 熊谷久恵先生
面瀬小学校前校長 長田勝一先生
GAMBARRE 株式会社
藤田勝氏
支援先：住友商事、中央大学学生会

学習会

前期 回数：2回

内容：夏の活動の材料集め、スタディツアーや事前調査に向けた勉強会では、地区の歴史・地理を学んだ。

後期 回数：3回

内容：団体の理念の見直し、学習指導のあり方、事前調査に向けた事前勉強では、ヒアリングする内容のまとめをしたり、ヒアリング先の情報を得たりした。
また、あそびばーの神林さんやスクールソーシャルワーカーの大金さん、消防士の佐藤さんに活動の質を高めるために、お話を伺いました。



団体の紹介：チーム女川

理念

○復興の歩みの一歩先を見つめ、女川の人たちの声に寄り添いともに歩む

東日本大震災から7年の歳月が経過し、私たちが活動する宮城県女川町は復興へ向かう途中にあります。時の経過とともに町の方々のニーズも変化していますが、常に女川の方々と対話の中から今自分たちには何ができるのか考えることを心掛けています。そのことから女川町の魅力を学内外の様々な人に伝えることや女川の震災から復興への道筋を伝えていくことを活動目的の1つとしています。そのために女川町の方々、一人一人の思いや考えを聴き、その言葉を大切にしながら町についての理解を深め、魅力溢れる女川町を「発信」していくことにつなげています。

○私たちが学んでいること、生活の場を基盤に個性を活かした活動を行う

女川における現地での活動に加えて、メンバー各々の大学生活を通して得たことを積極的に活動の中で活かせる機会として、東京での活動も頻繁に行っています。また活動で得たことを再び学びに還元するためにも、お互いの意見や情報を交換することも大切にしています。

活動場所

宮城県牡鹿郡女川町

代表者

日下部真莉（法学部2年）

所属メンバー

楠貴裕（法学部4年）、北村悠馬（文学部4年）、岩立文香（文学部3年）、岩田亮（法学部3年）、日下部真莉（法学部2年）、元田奈緒（法学部2年）、金井脩（法学部2年）、鈴木雄大（法学部2年）、合田みらい（文学部2年）、石山智弥（経済学部1年）、池谷侑紀（法学部1年）

活動先・協力先

女川町のみなさま、女川町観光協会、女川町社会福祉協議会、女川町役場、大原住宅、東北応援団白金支部

支援先

中央大学学会、日本財団学生ボランティアセンター

春の活動（新入生対象被災地スタディーツアー）

6月23日～6月25日 5人

活動内容：新入生を対象としたスタディーツアーの実施

夏の活動

8月28日～9月1日 3名

活動内容：ヒアリング実施

冬の活動

12月25日～27日 1名

活動内容：ヒアリング実施

春の活動

2月14日～17日 6名

活動内容：コミュニティ支援活動

団体の紹介：チームくまもと

理念

震災は人々や地域に多くの喪失をもたらします。

加えて東日本大震災によって甚大な被害を受けた東北が課題先進地域と呼ばれるように、震災は地域や人々が抱える課題を加速的に進行させ、複雑化させることもあります。

当団体が活動させて頂いている熊本県阿蘇郡西原村は震災前から地縁血縁型コミュニティが残る地域であり、古くからの集落が残る地域でした。

震災により住居を失った人々は従前居住地から離れ、仮設住宅やみなし仮設に移ることで古くからのコミュニティが失われたり、仮設住宅という密集空間で人々の関係性が歪になるというような状況が生まれます。

当団体の団体理念は二つあります。

一つ目は「人・地域・暮らしに焦点を当て、全体の中に個の居場所を作る」

二つ目は「小森の住民の方々の良い環境作りのキッカケ作り」です。

多くの喪失を抱えた人々が新たな環境で、密集した仮設住宅という空間で暮らしていく事の困難や心の落ち込みを学生は多角的に慮っていかなければなりません。

加えて、そういった方々が仮設住宅の中で安心して過ごせるような環境を作っていくことに取り組んでいきます。

最終的には学生主体ではなく、住民の方々が自立的かつ継続的に快適な環境を維持していくよう、住民の方々を巻き込みながら活動を行っていくことを意識していかなければなりません。

活動場所

熊本県阿蘇郡西原村

代表者

木村巨佑（法学部3年）

所属メンバー

大谷夏子（文学部3年）、恵良友貴（文学部3年）、藤原凌、（経済学部1年）、大上文華（文学部1年）、吉田圭吾（法学部1年）、梅澤泰介（文学部1年）、藤野将希（法学部1年）、横山直輝（法学部1年）、隈部雄太郎（法学部4年）、柚木勇（経済学部4年）、青野大志（経済学部4年）

活動先

熊本県阿蘇郡西原村小森仮設住宅

協力者

西原村地域支え合いセンター・西原村グリーンゲイブルズ・西原村たんぽぽハウス・宇治努さん

支援先

中央大学学会、中央共同募金会、日本財団学生ボランティアセンター

夏の事前調査

7月8日～9日 5名

活動内容：ヒアリング実施

夏の活動

9月13日～17日 9名

活動内容：西原村小森仮設住宅において全戸への訪問活動と集会所を利用した企画活動

冬の事前調査

11月18日～19日 5名

活動内容：ヒアリング実施

冬の事前調査

12月9日～10日 7名

活動内容：ヒアリング実施

冬の活動

1月6日～9日 9名

活動内容：西原村小森仮設住宅において全戸への訪問活動と仮設住宅内にあるキックボード場を利用して場づくりと企画の開催

春の事前調査

2月24日～25日 2名

活動内容：ヒアリング実施

春の活動

3月15日～18日 7名

活動内容：西原村小森仮設住宅において全戸への訪問活動と集会所を利用した企画活動

その他の活動**新入生勉強会**

4月以降、加入したメンバーに対して熊本地震に関してリサーチを行ってもらい、他メンバーに発表してもらう機会を設けた。

事前調査活動

全ての活動前に事前調査活動を行い、現地支援組織の方々にはヒアリングを行い活動の相談を行った。また、次回の活動で協働するために打ち合わせを行った。

傾聴講座

被災体験を持つ住民の方々のお話を伺うための勉強会を、日本能力開発センターの後庵正治先生をお招きし、「傾聴講座」と銘打って行った。

神戸ツアー

ボランティア元年とも呼ばれる阪神淡路大震災以降において、被災地支援の第一線で活動されてきた方々にお話を伺い、被災地支援を行う上での姿勢や心構えなどを学んだ。



2. 多摩キャンパス

1. 学内ボランティア活動

「クリーン大作戦・春の陣」

実施日：5月21日（日）
場所：中央大学多摩キャンパス周辺
参加者：24名（中大生18人、中大職員2名、その他）
内容：キャンパス周辺のごみ拾い活動

5月21日（日）、クリーン大作戦・春の陣を行った。学生18人、職員2人とその家族4人の合計24人が参加し、晴天のもとたくさんのゴミを拾った。中大～多摩動物園前コースと、中大～野猿街道の2コースに分かれて行った。

学生が工夫し作ってくれた空き缶を採る道具を使い、排水溝に入れられた空き缶を採ることに夢中になったり、普段とは違う目線で歩く道路はまた新鮮であった。

〈活動の様子〉



「クリーン大作戦・秋の陣」

日 時：11月29日（日）
 場 所：多摩キャンパス周辺
 参 加 者：学生24人、職員3人
 内 容：東中野自治会・谷津入支部の皆さんと一緒に、周辺のごみ拾い活動と草刈り

〈参加者の声〉

学生からは、「タバコのポイ捨てが多かった」「振り返ると掃除した道がキレイで気持ち良かった」「初めての参加だったが、いろんな人と話ができ想像以上に楽しかった」などの感想が聞かれた。

地域の皆さんとの合同開催のため、活動中に地元と一緒に地域の話で盛り上がり、由木のお話しや歴史を聞いたり、地域との交流が深まった。

〈活動の様子〉



2. 多摩キャンパス

「クリーン作戦・ミニッツ ～30分間のゴミ拾い活動～」

「クリーン作戦」に参加した学生から、「もっと定期的にゴミ拾い活動をしたい」という声があがり、昼休みの30分間を活用して「クリーン作戦・ミニッツ」を行っています。

	実施日	参加学生数
第1回	7月13日	20名
第2回	10月13日	13名
第3回	11月14日	10名
第4回	12月14日	12名



2. 防災ボランティア活動

チーム防災

理念

～防災を楽しみながら、地域と大学の架け橋に～

- ①顔が見える関係を築き、自助・共助の力を高める。
- ②学んだことを地域で活かす。

チーム防災は、被災地支援活動していた学生が、被災地で学んだ震災の恐ろしさや悲しみを多摩地域の防災に活かしたいという思いから2015年に結成されました。そのため、現在も半数近くのメンバーが他の被災地支援団体と兼任しています。

現在、日本では首都直下型地震が30年以内に70%の確率で起こると予測されています。その最大被害予想では東日本大震災の死者・行方不明者数を大きく上回るとされています。東日本大震災から7年、熊本地震から1年が経過し、人々の記憶から震災の記憶が薄れつつある今、私たちにできることは、被災地で起きた惨憺たる出来事を二度と繰り返さないように、防災の大切さを伝える活動を継続していくことではないかと考えています。

そのために私たちは、①地域防災の活性化、②地域内、学内、そして地域と大学を結ぶ災害時に備えた関係性づくり、③堅苦しいイメージの防災を楽しみながら参加者とともに学ぶ、という3点を心がけて今後も活動していきたいと考えています。

主な活動場所

東京都日野市、中央大学学内

代表者

向山碧杜（法学部2年）

所属メンバー

青野大志（経済学部4年）、水野翔太（経済学部3年）、登倉めぐみ（文学部3年）、田中瑠海（商学部3年）、廣田大智（経済学部3年）、海老名湧（法学部3年）、白須花恵（法学部3年）、稲泉大地（総合政策学部2年）、阿河祐介（法学部1年）、山本美彩子（法学部1年）

協力先

日野市社会福祉協議会 宮崎雅也氏

主な活動

Bosai Cafe

6月6日、12月11日

活動内容：オリジナルゲーム「防災神経衰弱」などの実施・進行

平山苑自治会の防災訓練

7月23日、11月26日 9人

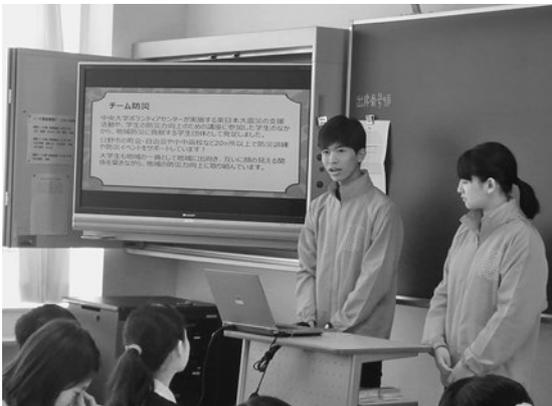
活動内容：避難所運営ゲーム。黄色いハンカチ運動の運営補助

2. 多摩キャンパス

(1) 中央大学附属中学校 出張授業

10月27日（金）、中央大学附属中学校の1年生170名に向け、公認学生団体「チーム防災」が防災に関する授業を行い、7名が参加した。毎年、府中消防署に頼んでいる授業が今年はできないことになり、2週間前に電話で依頼を受け、チーム防災の学生オリジナルの「防災ビンゴ」と「防災すごろく」を急遽準備、作成して実施した。

2週間という短い準備期間であったが、中学1年生という学齢に見合った興味を引くゲーム内容となっており、チーム防災メンバーとしても達成感があった様子であった。生徒のアンケートや先生からのフィードバックでも満足度が高く、来年もぜひお願いしたいとのことであった。



(2) 日野市での地域活動

「チーム防災」が日野市で実施した地域活動（10月～12月）の内容、人数などは以下のとおり。

NO	活動日時	内容	対象者数等	チーム防災
1	10月15日（日）	日野市民フェア 【防災活動（カエルキャラバン・防災すごろく・防災ビンゴ） を通じて地域の子供たちとの交流を図る】	小学生等 100人	10名
2	10月20日（金）	日野市平山小学校 【HUG訓練】	小4 70人	3人
3	10月21日（土）	日野市立滝合小学校防災訓練【カエルキャラバン】	小学生 700人	2人
4	11月26日（日）	日野市ひばりが丘自治会 【D I G訓練（災害想定ゲーム水害Ver）訓練】	地域住民 36人	5人
5	11月26日（日）	日野市平山6丁目防災訓練（平山苑自治会） 【黄色いハンカチ運動・消防員による救急講習】	地域住民 50人	10人
6	12月9日（土）	日野市防災訓練 【カエルキャラバン】	小学生等 100人	4人



1. 日野市民フェア【防災ビンゴ】



4. ひばりが丘自治会【D I G】



5. 平山6丁目防災訓練【黄色いハンカチ】



6. 日野市総合防災訓練【カエルキャラバン】

3. 地域ボランティア活動

(1) ユギ里山ファーム

実施日：4月22日、5月27日、6月24日、7月22日、8月26日、9月9日
11月11日、11月25日、12月9日、12月23日

参加者：学生のべ20名

場 所：八王子市・堀之内里山保全地域

内 容：里山保全地域での農作業活動として、地元NPOの活動に参加

(2) せせらぎ農園

実施日：4月20日、8月3日、10月8日

参加者：学生15名 教職員2名

場 所：八王子市・堀之内里山保全地域

内 容：せせらぎ農園での農作業活動として、地元NPOの活動に参加

(3) 落川交流センター

実施日：4月23日、5月28日、6月25日、10月29日、11月26日、12月17日

参加者：学生34名、教職員1名

場 所：日野市落川

内 容：地域拠点としての落川交流センターでの地域づくりに参加

(4) 日野新選組まつり

実 施 日：5月14日

実施場所：日野市

参加者数：学生13名、

内 容：日野市にゆかりのある新選組まつりのサポート

(5) みんなの遊・友ランド

実 施 日：6月11日

実施場所：日野市市民の森ふれあいホール

参加者数：学生7名

内 容：日野市役所が主催する、障害のある子ども遊ぶイベントの運営サポート

(6) みんなと一緒に運動会

実施日：10月1日
実施場所：中央大学・第一体育館アリーナ
参加者数：学生1名
内 容：一般ボランティアが参加。障がい者と積極的にかかわる

(7) まちづくり市民フェア

実施日：10月15日
実施場所：日野市市民の森ふれあいホール
参加者数：学生40名、教職員2名
内 容：学生が活動から学んだこと、活動団体への提案の発表を行った

(8) 夢ふうせんバザー

実施日：10月29日
実施場所：社会福祉法人夢ふうせん（日野市）
参加者数：学生3名
内 容：バザー運営のお手伝い

(9) スポーツボランティア日野

実施日：11月11日
実施場所：日野市
参加者数：学生2名
内 容：イベントの運営ボランティア

3. 後楽園キャンパス

1. りこボラ

理念：「理系でも、ボランティアを日常に！」

中央大学理工学部ボランティア団体「りこボラ！」では、後楽園（理工学部）キャンパス内及びキャンパスの位置する文京区を中心に活動しています。

団体の創設背景として、理工系の学生は文系の学生に比べてボランティア活動に関わる機会が少ないことが挙げられます。これは我々中央大学生に限ったことでなく日本の理系学生全般で言われていることであり、その原因は一般に、理工学部では講義や実験による拘束時間が長いことが理由であるとされていました。しかしながら、理工系の学生であっても授業時間以外はアルバイト・サークル等に時間を使っている学生が大半であるのが実情であり、ここに理工系学生への「ボランティアを通じた社会との関わり」及びその機会創出の意義を見出した理工学部生が集まり、「行動する知性」を体現すべくそれぞれの信念と共に活動しています。

活動内容としては、主に次の3つを軸に活動しています。

①学内のボランティア広報活動

（例：「ボラカフェ」…ボランティアを実際に経験した人がゲストスピーカーとなり、そこで経験したこと、学んだことを他のボランティア経験者・未経験者たちと共有する
「ネットワーク広報（LINE等SNS）」…りこボラ！企画や地域のボランティアについて広報活動を行い、理工系学生のボランティア認知率・参加率を高める 他）

②学内及び他団体、企業、周辺地域とのボランティア企画

（例：「国連機関UN WOMANコラボ企画“Do it Together！”」…女子学生の割合が少ない理工系キャンパスで、身近で感じた性差別について考える
「クリーン大作戦！」…大学周辺のゴミ拾いをゲーム形式で行い、清掃活動と共にボランティア活動の堅いイメージを払拭する
「理科実験」…理系学生ならではの強みを生かし、文京区の子供たちを対象に理科実験を行う 他）

③ボランティア機会の創出のための地域との連携

（交流先例（敬称略 順不同）：「文京区福祉協議会 フミコム」「大洋製薬（株）」 他）

りこボラ！運営メンバー名簿

2017年度

氏名	学年 (2017年度)	学科	備考
土屋 璃和登	1	情報工学科	代表
池田 木綿奈	3	人間総合理工学科	元代表
宇津木 春菜	3	生命科学科	元運営
後藤 百合	2	人間総合理工学科	監査
松田 美慧	1	情報工学科	副代表
高橋 智	1	情報工学科	
宮川 誠一郎	1	電気電子情報通信工学科	
中山 菜里	1	人間総合理工学科	渉外班班長
山口 正貴	1	電気電子情報通信工学科	資金運用調達担当
塚本 涼太	1	電気電子情報通信工学科	
山川 翔也	1	電気電子情報通信工学科	広報班班長
荻野 紗瑛子	1	都市環境学科	
島名 彩乃	1	都市環境学科	
森田 有哉	1	人間総合理工学科	
友成 陽祐	1	物理学科	内部班班長
金本 莉穂	1	人間総合理工学科	
黒島 綜一郎	1	人間総合理工学科	副代表
住谷 隆士郎	1	物理学科	
野口 景斗	1	電気電子情報通信工学科	
伊波 伸通	1	応用化学科	
宮本 祥佳	1	都市環境学科	
石田 理久	1	情報工学科	

2. 学内ボランティア活動

(1) 「ボラカフェ@後楽園」

「ボランティアや社会課題について気軽に話せる場所・時間・仲間づくり」を目的に、2015年度から多摩キャンパスで行われている『ボラカフェ』。後楽園キャンパスでは「りこボラ！」が様々なテーマで実施した。場所はいずれも3号館会議室。

	日程	テーマ	話し手	参加人数
第1回	6月6日（水）	入門編	・池田木綿奈（人間総合3年）	29名
第2回	7月5日（水）	海外ボランティアについて	・窪田梢（生命2年）	10名
第3回	10月18日（水）	科学×ボランティア	・黒島綜一郎（人間1年）	30名
第4回	12月13日（木）	大学や学生生活を考える	・変人学部とコラボレーション	21名
第5回	1月10日（水）	山元町での活動について	・宮川誠一郎（電気1年）	16名
合計				106名



(2) ボランティアガイダンス+花花花見

実施日：4月6日

場 所：後楽園キャンパス 5233教室、さくら並木通り

参加者：20人

内 容：ガイダンスでは体験談や団体の紹介、花見では坂でゴミ拾いを行った

(3) お菓子パーティー

実施日：4月24日

場 所：後楽園キャンパス会議室ABC

参加者：39人

内 容：経験者と一緒に遊ぶことでボランティアをより身近に感じてもらった

(4) シン・クリーン大作戦@後楽園

実施日：5月27日

場 所：後楽園キャンパス周辺

参加者：学生16名、教職員1名

内 容：大学周辺の道でゴミ拾いを行う

(5) 防災ゲーム体験会

実施日：6月8日

場 所：後楽園キャンパス 会議室ABC

参加者：1年生11人、2年生1人、3年生3人、4年生1人

内 容：防災ゲーム「シャッフル」「クロスロード～文京の街～」

(6) 白門祭@後楽園キャンパス

実施日：11月4日、5日

場 所：後楽園キャンパス 5134教室

参加者：4日148人、5日170人 合計318人

内 容：① 活動展示（ポスター・スライドショー・置きビラ）
② 防災ゲームコーナー（シャッフル・災害医療クイズ）
③ 防災体験コーナー（消火器・ビニール袋を使った骨折固定のやり方）
④ ①、③の内容から答えを探すクイズラリー
⑤ ④を全問正解すると景品の当たる福引

(7) UN WOMAN「アイディアソン」

企画概要：

「自由に意見やアイデアをみんなで共有し合い、国連ウーマン（UN WOMAN）を介して世界に発信しよう」

タイトル：「意見を国連へ！」男女がともに考え・取り組む現在と将来

テーマ：ジェンダーに関わる現在テーマ（学内）と将来テーマ（職場・社会）

実施日：1月11日

場所：後楽園キャンパス 5133号室

来賓：結城 直子（UN Woman 日本事務所パートナーシップ・コンサルタント）

加藤 俊一（中央大学副学長）

参加者：6名（男性4名：女性2名）

参加者の声

- ・ マタハラについて感情や現実問題では解決できない非常に難しい問題だと思い知らされた
- ・ 経済活動を最優先した制度がマタハラや環境問題を起こしているのではないかと思った
- ・ マタハラに関して身近さはなかったが、状況設定をして考えてみると自分も加害者になりかねない危険性を感じた。
- ・ 女性が男性のノリについていけない部分や他に考えているものがあることを知り、解決策には互いにリーダーを決め話し合うことは良いと思った。



3. 地域ボランティア

(1) 新歓ボラ活動 花壇整備

実施日：4月15日
場 所：文京区役所前
参加者：学生29名、教職員2名
内 容：NPO法人「緑のゴミ銀行」の花壇整備活動に参加した

(2) 防災ゲームDay2017 そなエリア東京

実施日：7月2日
場 所：東京臨海広域防災公園「そなエリア東京」2階レクチャールーム
参加者：学生16名（りこボラ11名、チーム防災）
内 容：災害シュミレーションゲーム「ダイレクトロード」、活動紹介パネル展示

(3) RUN伴

実施日：9月16日
実 施：文京区内
参加者：7名（りこボラ！から）
内 容：認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指してみんなでタスキをつないで、地域を回るチャリティーイベント

(4) 文京ボランティア市民活動まつり

実施日：11月18日
場 所：文京区民センター
参加者：学生17名
内 容：文京区学生ボランティア協議会（中央大、跡見学園女子大、東洋大、拓殖大、東洋学園大）の「りこボラ」ブースで「災害」をテーマに防災カードゲーム「シャッフル」を実施した

(5) 文京湯けむりお掃除with漱石

実施日：12月3日
実 施：郁文館高校周辺
参加者：5名
内 容：ゴミ拾いをするとともに夏目漱石ゆかりの地を巡る街の清掃活動をしながら夏目漱石ゆかりの地を実際に訪れることで知識を深める。また、この企画は「郁文館高校」、「green bird」とのコラボ企画であるため、普段交流のない人と会話し交流を深めた

4. 学内での活動報告事業

1. ボランティア活動写真展

実施日：10月22日（日）～26日（木）

展示期間中の各日昼休みに学生が説明会を実施した

場 所：多摩キャンパス中央図書館1階

【ホームカミングデー】



【写真展】



2. キャンパスライフ体験会（父母連絡会）

実施日：10月28日（土）12:20-13:10（50分）

場 所：1号館4F 1406号室

発表者：

- はまぎくのつぼみ（岩手県宮古市） 桑田百合子（文2）
- 面瀬学習支援（宮城県気仙沼市） 高本翔太（経3）
- チームくまもと（熊本県西原村） 大谷夏子（文3）
- チーム防災（東京都日野市） 田中瑠海（商3）

〈アンケートより一部抜粋〉

- ボランティアを通して、学生の皆さんが内面から成長されているのが良く分かりました。我が子はこういった活動に参加しておらず、親戚が被災地に住んでいるようなこともないので、なかなか足を踏み入れる機会もなく過ぎております。

時間も体力も十分にあるこの大学生活の中で、ボランティア活動に入る機会が多くあればなと思います。本人の心がけ次第だとは思いますが、広く情報を発信してください。本日の発表を聴いて、たくさんの事を学んだ素晴らしい学生さんの姿を見て、中央大学に、より多くの立派な学生さんが増えることを望みます。

ボランティアは受ける方だけにプラスがあるのではないと良く分かりました。これからも頑張ってください。

★本報告会で聴きたい項目（pointで集計）	1位：5点	2位：3点	3位：1点
A：「なぜボランティアを始めようと思ったか（動機）」	62点		
B：「実際に活動をする中で、何を得ているか」	74点		
C：「授業での学びや進路への影響があったか」	44点		



5. 学外での活動報告事業

(1) 大学ボランティア活動写真展

実施日：4月3日～7日

実施場所：日野市役所1階市民ホール

内容：「被災地から日野へ」日野市企画部地域協働課の協力で写真展を行った

(2) 防災ゲームDay2017

実施日：10月8日

実施場所：「そなエリア東京」2階レクチャールーム

参加者数：チーム防災 5名、りこボラ! 11名

内容：災害シミュレーションゲーム「ダイレクトロード」、活動紹介パネル展示

(3) 日本財団学生ボランティアセンター報告会

実施日：2月10日～11日

場所：TKP新橋汐留ビジネスセンター

参加者：5名

内容：スタディーツアーの報告及び気仙沼、宮古での活動報告

(4)「大学生ボランティア活動報告パネル展&防災イベント」報告

東日本大震災3月11日の約1か月前、イオンモール多摩平の森（JR豊田駅北口）にて、多摩地区6大学（中央、明星、法政、首都大学東京、実践女子、東京薬科）合同で、被災地支援と地域防災のイベントを行った。近隣大学と協力して行うことで、学生同士の交流が進み、学生の人間の視野が広がることや学生の活動が活発化すること、また、集客やマスメディアの注目を集めることも狙った。実施にあたり、日野市ボランティアセンター、日野市地域協働課、イオンモールから多大な協力をいただき、会場および設備は無償で貸していただいている。地域と学生が直接触れ合うことで、学生が地域のニーズに気付き考えが深まることや地域が等身大の学生を知り、地域での学生のボランティア活動が円滑に進むことにもつながった。

1. 実施期間 2月14日（水）～18日（日）5日間

2. 場所 イオンモール多摩平の森（JR豊田駅北口）

3. 内容

▼パネル展示 期間中開催

各大学の被災地支援の活動を写真や文字で紹介。学生が会場で解説を行う。

▼イベント 2月17日（土）12時～16時、2月18日（日）11時～16時

- ①大学生・中学生による活動報告
- ②防災ワークショップの実施（防災人間すごろく、カエルキャラバン、避難所用間仕切り展示）
- ③東北物産展の実施
- ④アロマキャンドル作りの実施
- ⑤スタンプラリーの実施

4. 来場者数

パネル展 約1,000人、イベント 約1,500人 【合計 2,500人】

5. 参加大学生数 延べ150人

6. 参加者の感想

〈来場者〉

- 継続することがとても大事だと思います。社会人になっても継続的な活動をお願いいたします。
- それぞれの方の「想い」「熱量」のリアルさを感じました。大変刺激になりました。
- 学生が自主的にボランティアをし、結果を出している点に、とても尊敬の気持ちを持ちました。
- 各学校頑張っていることを、初めて知りました。このような素晴らしい姿や東北の様子を、関係者だけでなく、通行人も立ち止まって発表の様子を見ることができないものかと思いました。ボランティア活動ありがとうございます。

〈学生スタッフ〉

- 来て下さった人がこちらの説明をしっかりと聞いてくれたことがとても嬉しかった。ただ販売するだけでなく、それがどのような物なのかを意識して伝えることが大切だと感じた。
- 毎年続けていくことで支援の輪も広がるし、風化も防げると感じた。
- 幅広い年齢層の方がスタンプラリーに参加して下さっていた。パネルを熱心に見て下さる方もいて、やりがいを感じた。

5. 学外での活動報告事業

7. 広報活動およびメディア掲載

▼広報活動

- ・中央大学ホームページ
- ・中央大学ボランティアセンターFacebook
- ・CVCだより
- ・日野市ボランティアセンターだより

▼メディア掲載

- ・20180218読売新聞（多摩版）

8. 写真



6. 入門

1. ボランティア講座

【多摩】

(1) 公務員になりたい人のためのボランティア講座

実施日：5月23日 6月21日

場所：多摩キャンパス 6103教室

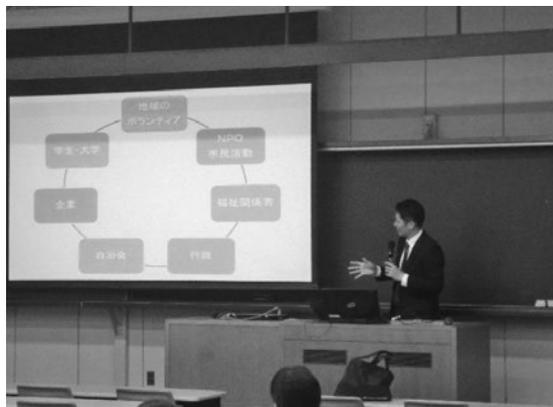
参加者：5月 51名 6月 62名

内容：公務員に必要なボランティア精神、ボランティアの4原則、ボランティアの目的や意義、ボランティアマナー、情報の探し方

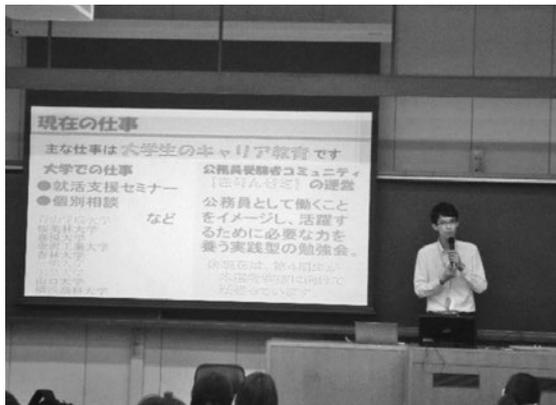
〈参加者の声〉

- ・公務員に必要な精神を確認できた
- ・公務員とボランティアがどうつながっているか分かった
- ・地域の課題に触れるという、公務員をめざす上でのボランティアの意義や街づくりという観点からのボランティア精神の必要性に気づくことができました

〈5月講座〉



〈6月講座〉



(2) 地域発見！公務員と巡る五感で感じるバスツアー

実施日：5月28日 6月17日

場所：八王子市及び日野市近郊

参加者：5月 23名 6月 25名

内容：八王子市内と日野市内の地域拠点2カ所を巡り、地域づくりのリーダーさん達から話を伺う

〈5月バスツアー〉



〈6月バスツアー〉



(3) ボランティア体験×学び 振り返りワークショップ

実施日：9月30日（土）13：00～20：00
 場所：落川交流センター（日野市落川）
 参加者：学生25名、先生5名、職員2名
 内容：ボランティア活動の振り返り

〈参加者の声〉

- ・個人の反省がじっくりできたので、夏の活動を今一度思い出すことができた。
- ・普段は東北の被災地を中心として防災について学んでいるが、今回は自分の住んでいるあたりの防災について学ぶことができた。
- ・団体に話し合う時間があり、普段の活動時間内ではできない課題の共有ができた。
- ・言語化することによって自分の伝えたいことを再認識できた。

〈講座の様子〉



(4) 春休み、一歩踏み出したいアナタのためのボランティア講座

実施日：2月2日(木) 13:00~15:00

場所：多摩キャンパス 3256号室

参加者：25名

内容：春休みを前にして、ボランティア講座を行った。今回は、すでに活発に活動している学生3人に話をしてもらい、3グループに分かれてワールドカフェ方式で主に体験談を話してもらった。

普段は、昼休みの時間を利用して行っているボランティア説明会が多いため、ゆっくりと時間をかけて話せる贅沢な時間となった。当日は、大雪の翌日にもかかわらず、多くの学生の参加してくれた。

〈講座の様子〉



(5) 文学部ボランティア論

実施日：4月～7月の全14回

会 場：多摩キャンパス 3351号室

参加者：履修者は18名、その他聴講者多数

内 容：文学部の山科満教授の提案のもと、ボランティアセンターが関わる形で初めて「ボランティア論」という正課授業を行うことができた。ボランティア実習を伴う初めての試みのため、月曜日の1限に設定したため、履修生は少なかったが、次年度に繋がる内容の濃い授業となった。

	日程	内容
第1講	4月10日	ボランティアとは何か
第2講	4月17日	第1講の復習、ボランティアが人と向き合うということ
第3講	4月24日	まちづくりと環境 NPO法人フュージョン長池 理事長・田所喬氏
第4講	5月8日	養育家庭（里親）に暮らす子どもの学習支援 NPO法人キアセット 大友のぞみ氏
第5講	5月15日	障がい者福祉 社会福祉法人夢ふうせん 施設長・浅野大輔氏
第6講	5月22日	生ごみを活用したコミュニティーガーデン せせらぎ農園 代表・佐藤美千代氏
第7講	5月29日	国内での外国籍者支援 NPO法人多文化共生センター東京 柘木典子氏
第8講	6月5日	ワークショップ（どのフィールドを選ぶのか言語化）
第9講	6月12日	国際ボランティア NPO法人NICE 開澤真一郎氏
第10講	6月19日	被災地における子ども支援 気仙沼の場合 一般社団法人プレーワーカーズ事務局長・理事 神林俊一氏
第11講	6月26日	震災におけるボランティア 神戸の経験から 被災地NGO協働センター 顧問・村井雅清氏
第12講	7月3日	実習のふりかえり①～社会編
第13講	7月10日	実習のふりかえり②～個人編
第14講	7月17日	まとめ 市民社会におけるボランティアとNPO

【後楽園】

(1) 「理工学部新入生ガイダンス」

日 時：4月6日（木）①13時～14時、②15時～16時

場 所：後楽園キャンパス 5233教室

内 容：

1. ボランティアセンターの紹介
2. ボランティア経験者の体験談
 - ・田中瑠海さん（商学部3年）「はまぎくのとつぼみ」での活動を通して
 - ・池田木綿奈（人間総合理工学科3年）教育系ボランティア等と理系との繋がりに関して
3. ボランティアセンター学生スタッフ後楽園支部「りこボラ！」の紹介
「りこボラ！」運営メンバー 小泉郁乃さん（生命科学科2年）
4. りこボラ！PR動画

参加者：

	数学	物理	都市	精密	電気	応科	経工	情報	生命	人間	計
1回目	3	1	0	1	0	3	1	4	0	1	14
2回目	4	3	3	2	5	2	1	3	2	1	26
合計	7	4	3	3	5	5	2	7	2	2	40

参加者感想（一部抜粋）：

- ・理系にボランティア活動はあまり縁の無いものと思っていたが、オリエンテーションでのリコボラの映像や活動写真は惹き付けるものがあったやってみようかなという気になった。理系ならではの視点というのは考えたことがなく面白そうだなと思った。理系大学の小さなボランティア団体かと思っていたが活動は本格的で他の団体に引きをとらない内容で驚いた。
- ・上級生がすごい面白くて好感を持った。活動についての話を聞きたくさん学べそうと感じました。
- ・ボランティアガイダンスに関しては、少し段取りが悪かったように感じた。トラブルへの対応力が少し足りなかったのではないかと感じてしまった。



(2) 「理工学部オリエンテーション」

理工学部で1年生を対象に行われる、「オリエンテーション」にて、6月5日(月)6日(火)1限で「聞かなきゃ損する！ボランティア入門」を行った。事前のアンケートでは70名ほどの参加者を予定していたが両日とも100名を超える学生が参加し関心の高さを示した。また「りこボラ！」代表学生、1年生メンバー学生の体験談を学生視点で話をしてもらった。また文京区社会福祉協議会の職員からも文京区の具体的なボランティア活動について話をしてもらい、初心者の学生でも参加ができる具体的な活動などを紹介していただいた。

【概要】

1. 「身近なボラセン‘文京社協’とは」・・・文京区社会福祉協議会 田中静恵さん
2. 「りこボラ！」の説明・・・5日：池田木綿奈(人間2) 生島功貴(数学1)
3. 「私の体験談」1年VC学生スタッフ・・・
5日：小野隆規(生命1) 佐治恭真(人間1) 土屋璃和登(情報1)
6日：荻野紗瑛子(都市1) 友成陽祐(物理1) 山口正貴(電気1)
4. りこボラ！顧問より・・・田口先生

【出席者数】

学科	1日目	2日目	
数学	8		
物理		10	
都市		30	
精密		23	
電気	1	33	
応化	49		
経工	15		
情報	26		
生命		19	
人間	32		
計	131	115	246



文京区社会福祉協議会 田中さん



荻野さん(都市1年)



会場の様子(6日)

(3) 「理工（後期）オリエンテーション」実施報告

理工学部で1年生を対象に行われる、「オリエンテーション」にて、10月9日(月)1限で「今からでも間に合う、ボランティア入門」を行った。代表の池田さんよりボランティアについてケーススタディを示し対話定式でボランティアの概念について参加者同士で意見を出し合った。夏の東北ボランティアに参加した森田さんと荻野さんからは宮城県でのトマト栽培での農業支援体験（山元町）とホタテ養殖での漁業支援体験（牡鹿半島）をそれぞれ披露した。また、土屋さんは地域での学童ボランティア体験を披露した。

【概要】

1. 「概要説明」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・伊波伸通（応化1）
2. 「いまさら聞けない、ボランティア・・・・って？」・・・・・・・・池田木綿奈（人間3）
3. 「私の夏の体験談」1年VC学生スタッフ・・・・・・・・森田有哉（人間1） 荻野紗瑛子（都市1）
土屋璃和登（情報1）

【出席者数】

学科	
数学	2
物理	3
都市	7
精密	
電気	4
応化	1
経工	3
情報	4
生命	
人間	6
計	30



森田さん（人間1年）



土屋さん（情報1年）

2. ボラカフェ

実施日：下記参照

場 所：多摩キャンパス6号館教室、グループカウンセリングルーム

内 容：お昼休みにボランティアについて気軽に話せる場として計6回実施した

日程	テーマ	参加人数
4月18日	ボランティアってどんなもの??入門編	18人
4月24日	多摩の魅力発見! 地域ボランティアってどんな感じ?	3人
4月28日	国際&海外ボランティアってどんなことする?	5人
5月31日	異国の文化を享受する大切さ編	4人
6月14日	国際ボランティアから得たもの編	12人
12月19日	ボランティアってどんなもの??入門編	4人

7. スキルアップ編

1. 「傾聴講座」

日 時：6月3日（土）13時～17時

場 所：3256教室

参加者：計26名（ボランティア公認学生団体所属学生19名、一般募集学生5名）職員2名

講 師：NPO法人P.L.A代表 後庵正治氏、松尾隆義氏

〈学生の感想〉

- 自分の気持ちを、そっと心の中に留めておき相手の真意を上手く吐き出させて上げることの難しさ、大切さを学んだ。（経済1年）
- 確認と相手の言葉の繰り返しをすることで、相手が「共感してもらっている」と感じることができること。（文1年）
- 「傾聴のコツ・ツボ」を抑えた上での傾聴は話し手の感情の表出の一助となると共に、「この人となら話してもよい」という信頼感を抱かせる事にも繋がるということ。（経済3年）
- 相手の話を引き出すためには、まず相手の気持ちを共感し、繰り返して受け入れる体制を作ることが大切だと思った。（理工1年）



2. 神戸スタディツアー

公認学生団体の代替わり（引継）を主な目的として、阪神淡路大震災の教訓を学ぶ「神戸スタディツアー」を実施した。2年前から実施、今回で3年目の開催となり、学生13名と教職員3名が参加した。東北や熊本で活動してきた学生たちが、自らの復興支援活動を、神戸からの時間軸のなかで捉え直すことで、今後の活動の展望を見つめることができた。

〈参加者〉 16名（学生13名、引率3名）

〈行程表〉

3月1日	午前：DVD鑑賞、個人の目標設定 午後：村井雅清さん・被災地NGO協働センター顧問のお話を聞く (宿泊) ひょうご共済会館
3月2日	午前：宇都幸子さん・阪神高齢者・障がい者支援ネットワーク代表のお話を聞く 大池東住宅のお茶会に参加 午後：宮定章さん・認定NPO法人まち・コミュニケーション代表理事のお話を聞く (宿泊) ひょうご共済会館 振り返りミーティング 解散



8. 防災・災害

1. 災害救援ボランティア講座

実施日：8月4日（金）、7日（月）、8日（火）

場 所：多摩キャンパスCスクエア中ホール 7日（月）午後、立川防災館

参加者：31名

内 容：8月4日（金）終日：上級救命技能講習

8月7日（月）午前：講義 出火防止と初期消火、災害救援ボランティアの基本
午後：立川防災館での災害疑似体験

8月8日（火）午前：演習 災害時のリーダーシップとチームビルディング、
講義 被災地でのコミュニケーション

午後：講義 災害と防災対策の基本

〈参加者の声（アンケートより抜粋）〉

- 防災活動をしている人だけでなく、防災活動をしていない人にとっても役立つと感じた。
- 自分自身の安全のために役立つと思った。
- 応急手当を学べるため、友人や後輩にも参加を勧めたい。

〈講座の様子〉



2. 「チーム防災」学内活動報告

1. 備蓄食品配付

本学危機管理会議において、東日本大震災後に仕入れた災害備蓄品（食料のみ）が賞味期限となるため、単純に入れ替えるのではなく、学生に配布する方が良いとの意見が出された。その意見を踏まえ、総務部、学事部、学生部で配付時期、方法を協議した結果、「チーム防災」により備蓄倉庫からの搬出を行い、配布を次のように実施した。

日 時：11月20日（月）14時 ～

24日（金）14時

* 配付予定数終了

場 所：ノートイク受付所

（5号館地下一階）

配付数：乾パン・ビスケット・クラッカー

計10,842個（451ケース×24個入り）

目的と成果：「チーム防災」の学内での活動場所を提供し、学生による学生への配布により、各自が災害備品の確認を事前に自ら確認する機会とした。チーム防災のゼミ生や友人が受取に来たり、体育連盟や文化連盟の学生とも「乾パン」での交流が行われ、ほぼ予定どおりの期間での予定個数の配布ができた。

備蓄品と共に配付したチラシ（抜粋）



2. 授業での発表

商学部中村寛樹先生の「アントレプレナーシップ論（月2・木4）」では、履修者による発表を随時実施しており、「チーム防災」田中瑠海さんが履修生60名に対して次の発表を行った。

日 程：11月27日（月）11：00～12：30（2時限）

場 所：多摩キャンパス 5202号室

内 容：被災地支援活動での課題解決に向けた取り組みを紹介し、減災サイクルに基づいた地域防災への自分自身の関心の移り変わりや地域防災の重要性を認知してもらう。

成 果：被災地に出向いたことがない学生にとっては、現場に足を運んだ経験に基づく話は説得力があり、復旧と復興の違いに関して田中さん自らの見解を述べていた。なお、この発表をきっかけとして、12月7日（木）15時（4時限）の授業は、防災訓練（クロスロード）への参加が授業の一環となった。



3. 「チーム防災」×学友会所属学生合同防災訓練

「チーム防災」は、災害時に備え防災への認識を高めることを目的とした活動を行っており、昨年は、学生と教職員と地域住民との合同で防災訓練を2回（クロスロード・HUG）実施した。本件は、学友会事務室からの依頼があり、クロスロードによる防災訓練を学友会所属学生対象で実施した。

なお、本訓練は、商学部中村寛樹先生「アントレプレナーシップ論」での授業の一環で実施したいとの要請を受けて、合同での訓練となった。

日 程：12月7日（木）15：00～16：30（4時限）

場 所：多摩キャンパス Cスクエア中ホール

参加者：学生77名（学友会32名・授業39名・チーム防災6名）

教職員4名

内 容：（1）中央大学版クロスロード（75分）

「クロスロード」とは、災害対応ゲーム教材である。ゲームの参加者は7名程度の班に分かれ、設問を自らの問題として考え、YESかNOかで自分の考えを示すとともに、参加者同士が意見交換を行いながら、ゲームを進めていく（8問実施）。正解を求めるものではなく、多様な意見や考えがあることを理解してもらい、災害時のシミュレーションを事前に行うことで、防災意識を高めるものである。

（2）中村先生からの総評・学習の振り返り（10分）

今回の成果は学生が防災に関する知識を得たこと、減災については普段意識していないためこのようにシミュレーションを行うことは重要であるとの総評を受けた。なお、振り返りでは、知識だけでなく、日頃から顔を合わせる学生同士のコミュニケーションの大切さを認識してもらうことができた。



4. 学生×教職員合同K地区防災研修

学内の防災地区である、K地区は、教務総合事務室・学生部・大学史編纂課となっており、2017年度の防災訓練は、チーム防災によるクロスロードを次のように実施した。

日 程：3月9日（金）9：30～11：30

場 所：多摩キャンパス 学生部委員会室

参加者：職員18名（教務総合事務室6名、学生課3名、厚生課5名、学生相談課1名、大学史編纂課3名）

中大生協2名、チーム防災4名

実施内容：

(1) チーム防災の紹介（5分）

チーム防災が取材（JCOMの番組「若者による地域安全活動」）を受けた録画を放映

(2) 中央大学版クロスロード（105分）

「クロスロード」とは、災害対応ゲーム教材である。参加者は6名程度の4班に分かれ、設問を自らの問題として考え、YESかNOかで自分の考えを示すとともに、参加者同士が意見交換を行いながら、ゲームを進めていく（計12問実施）。正解を求めるものではなく、多様な意見や考えがあることを理解してもらい、災害時のシミュレーションを事前に行うことで、防災意識を高めるものである。

(3) 学習の振り返り・アンケート記入（10分）

チーム防災から、防災に関する知識は日頃から意識しておくことの重要性、減災に向けてはこのシミュレーションを行って欲しいとの総評が行われた。参加者からの主な感想は次のとおり。

- 一方的な講義ではなく、自分の意識を改めて知るだけでなく、他の人の意見を聞くことができ、とても考えさせられた。
- 頭の体操になった。最終的な判断は自分ですが、人によつての思考過程が違うことを体験できたのは良かった。
- 立場によって考え方、物事の判断基準が異なっていることがわかり、非常時にはリーダーの必要性を感じた。
- 災害時の正しい行動原理、原則維持の重要性、状況判断の優先順位を学習した。
- 学生としての視点を織り交ぜながら解説を行ったところが良い。



9. 表彰受賞学生団体

(1) 中央大学学員会会長賞

学員会会長賞

チームくまもと 木村 巨佑 (法学部3年)

チーム女川 日下部 真莉 (法学部2年)

はまらいんや 千葉 麻由 (文学部2年)

チーム防災 向山 碧杜 (法学部2年)

学員会会長奨励賞

はまぎくのつぼみ 今野 陽介 (総合政策学部2年)

面瀬学習支援 梅森 隼 (総合政策学部2年)



(2) 熊本市被災者支援感謝状

チームくまもと

10. ボランティアセンター 利用集計

ボランティアセンター相談者統計（人）

月	相談者	男	女	法	経	商	文	総	理	不	1	2	3	4	他	被災地/ 災害支援	子ども/ 青少年	福祉	国際	構内	地域/ まちづくり	環境	文化/ 芸術	スポ ーツ	他
4月	267	133	134	107	58	29	42	21	1	0	60	113	80	9	0	179	160	126	209	9	302	260	188	44	88
5月	257	134	123	91	56	36	33	41	0	0	51	122	77	7	0	165	34	27	31	-	56	41	33	29	15
6月	303	179	124	123	54	30	41	55	0	0	56	141	93	13	0	191	43	29	39	-	57	59	35	30	17
7月	316	162	154	128	62	43	50	33	0	0	96	128	82	10	0	190	32	20	30	-	42	36	23	14	20
8月	53	28	25	25	4	5	15	3	0	1	11	21	17	4	0	33	9	8	5	-	14	6	5	5	2
9月	126	71	55	55	22	11	19	18	1	0	22	60	38	4	2	115	17	9	15	-	26	26	14	10	7
10月	215	124	91	86	34	22	33	32	0	8	28	112	52	10	13	149	26	16	25	-	33	29	22	14	7
11月	182	99	83	82	34	28	25	12	0	1	46	90	42	4	0	156	11	10	9	-	12	9	8	8	4
12月	163	88	75	66	32	18	24	20	0	3	39	89	25	6	4	130	11	4	9	-	13	7	8	3	2
1月	126	64	62	52	16	11	31	14	0	2	19	64	40	3	0	107	5	6	1	-	7	6	6	3	3
2月	122	69	53	49	32	13	20	11	0	8	49	41	18	6	8	95	9	4	9	-	12	11	9	4	3
3月	119	74	45	51	20	9	29	9	0	1	34	47	27	10	1	106	6	5	5	-	9	8	6	2	2
合計	2249	1225	1024	915	424	255	362	269	2	24	511	1028	591	86	28	1616	363	264	387	9	583	498	357	166	170

ボランティアセンタールーム利用記録

月	利用件数(件)	利用日数(日)	利用時間(分)	利用人数(人)
4月	42	22	6133	265
5月	60	19	5765	329
6月	59	23	6140	213
7月	36	19	4220	174
8月	13	10	3720	111
9月	23	15	3360	145
10月	55	24	5450	217
11月	46	23	5515	304
12月	44	17	4665	265
1月	25	15	2830	76
2月	18	14	3760	53
3月	22	13	3030	116
合計	443	214	54588	2268
月平均	36.9	17.8	4549.0	189.0

ボランティアセンタールーム本貸出記録

年度	冊数
2013年度	48冊
2014年度	118冊
2015年度	51冊
2016年度	41冊
2017年度	75冊

11. ボランティアセンター取組記録

2017年度

活動タイトル	日程	参加人数
【スタディーツアー】		
気仙沼スタディーツアー	6月3日(土)～5日(日)	12
女川スタディーツアー	6月23日(金)～25日(日)	5
神戸スタディーツアー	3月1日(木)～2日(金)	16
【被災地支援】		
面瀬学習支援事前調査(宮城県気仙沼)①	6月23日(金)～26日(月)	11
面瀬学習支援事前調査(宮城県気仙沼)②	7月7日(金)～10日(月)	11
面瀬学習支援夏季活動(宮城県気仙沼)	8月11日(金)～22日(火)	29
面瀬学習支援事前活動(宮城県気仙沼)	10月18日(水)～20日(金)	1
面瀬学習支援 冬活動	12月22日(金)～30日(土)	28
面瀬学習支援 春活動	3月22日(木)～31日(土)	18
はまぎくのつぼみ事前調査(岩手県宮古市)	6月9日(金)～11日(日)	5
はまぎくのつぼみ①夏季活動(岩手県宮古市)	8月6日(日)～10日(木)	14
はまぎくのつぼみ②夏季活動(岩手県宮古市)	8月14日(月)～18日(金)	13
はまぎくのつぼみ③夏季活動(岩手県宮古市)	9月4日(月)～8日(金)	8
はまぎくのつぼみ 冬活動	12月25日(月)～27日(水)	11
はまぎくのつぼみ 春活動	3月4日(日)～9日(金)	11
はまらいんや事前調査(宮城県気仙沼)	5月26日(金)～29日(月)	7
はまらいんや事前調査(宮城県気仙沼)	8月16日(水)～20日(日)	3
はまらいんや 夏季活動(宮城県気仙沼)	9月6日(水)～11日(月)	9
はまらいんや 冬事前活動(宮城県気仙沼)	11月24日(金)～27日(月)	2
はまらいんや 冬事前調査	12月26日(火)～30日(土)	7
はまらいんや 春活動	3月20日(火)～23日(金)	3
女川スタディーツアー	6月23日(金)～25日(日)	5
チーム女川 祭事前準備	7月23日(日)	2
チーム女川 白金商店街	8月5日(土)～6日(日)	3
チーム女川 麻布十番商店街	8月26日(土)	1
チーム女川 夏活動	8月28日(月)～9月1日(金)	3
チーム女川 冬活動	12月25日(月)～27日(水)	1
チーム女川 春活動	2月14日(水)～17日(土)	6
チームくまもと 夏事前調査	7月8日(土)～9日(日)	5
チームくまもと 夏活動	9月13日(水)～17日(日)	9
チームくまもと 冬事前調査①	11月18日(土)～19日(日)	5
チームくまもと 冬事前調査②	12月9日(土)～10日(日)	7
チームくまもと 冬活動	1月6日(土)～9日(火)	9
チームくまもと 春事前調査	2月24日(土)～25日(日)	2
チームくまもと 春活動	3月15日(木)～18日(日)	7
【夏ボラ】		
気仙沼市プロジェクト	8月7日(月)～10日(木)	8
石巻市雄勝プロジェクト	8月13日(日)～16日(水)	5
山元町プロジェクト	8月21日(月)～23日(水)	8
石巻市牡鹿半島プロジェクト	8月26日(土)～28日(月)	10
【クリーン作戦】		
クリーン大作戦・春の陣	5月21日(日)	20
クリーン大作戦 秋の陣	11月26日(日)	27
クリーン作戦 ミニッツ①	6月13日(火)	8
クリーン作戦 ミニッツ②	7月13日(木)	13
クリーン作戦 ミニッツ③	11月14日(火)	11
「シン・クリーン大作戦」(後楽園)	5月27日(土)	16
【地域ボランティア】		
めぐみ野自然の会①	4月15日(土)	2
ユギ里山ファーム①	4月22日(土)	3
落川交流センター・炊き出し訓練&マルシェ①	4月23日(日)	4
せせらぎ農園①	4月30日(日)	1
ひの新選組まつり説明会	5月8日(月)	14
ひの新選組まつり	5月13日(土)	8
ひの新選組まつり	5月14日(日)	13
めぐみ野自然の会②	5月20日(土)	1
ユギ里山ファーム②	5月27日(土)	1
落川交流センター・炊き出し訓練&マルシェ②	5月28日(日)	4
日野市地域懇談会	6月3日(土)	2
めぐみ野自然の会③	6月3日(土)	2

活動タイトル	日程	参加人数
八王子環境フェスティバル	6月3日(土)	1
みんなの遊・友ランド	6月11日(日)	7
めぐみ野自然の会④	6月17日(土)	1
ユギ里山ファーム③	6月24日(土)	4
落川交流センター・炊き出し訓練&マルシェ③	6月25日(日)	2
日野市七夕まつり	7月1日(土)	5
めぐみ野自然の会⑤	7月1日(土)	2
ユギ里山ファーム④	7月22日(土)	4
せせらぎ農園②	8月3日(木)	15
めぐみ野自然の会⑥	8月5日(土)	1
浅川アユまつりの運営ボラ	8月13日(日)	1
七ツ塚・トマト収穫体験	8月24日(木)	1
ユギ里山ファーム⑤	8月26日(土)	2
めぐみ野自然の会⑦	9月2日(土)	1
南新井まつり	9月3日(日)	1
ユギ里山ファーム⑥	9月9日(土)	1
めぐみ野自然の会⑧	9月16日(土)	1
南新井まつり	9月17日(日)	1
みんなといっしょの運動会	10月1日(日)	1
わたぼうし祭	10月1日(日)	34
めぐみ野自然の会⑨	10月7日(土)	1
せせらぎ農園③	10月8日(日)	1
まちづくり市民フェア	10月15日(日)	40
めぐみ野自然の会⑩	10月21日(土)	1
夢ふうせん祭り・運営手伝い	10月29日(日)	3
落川交流センター①	10月29日(日)	8
ごみゼロ収穫祭	11月5日(日)	1
スポーツボランティアin日野	11月11日(土)	2
ユギ里山ファーム⑦	11月11日(土)	2
めぐみ野自然の会⑪	11月11日(土)	2
ユギ里山ファーム⑧	11月25日(土)	1
落川交流センター②	11月26日(日)	13
めぐみ野自然の会⑫	12月2日(土)	1
ユギ里山ファーム⑨	12月9日(土)	1
めぐみ野自然の会⑬	12月16日(土)	2
落川交流センター炊き出し訓練&マルシェ④	12月17日(日)	3
ユギ里山ファーム⑩	12月23日(土)	1
落川交流センター③	2月25日(日)	2
めぐみ野自然の会⑭	3月18日(日)	1
【チーム防災】		
BOSAI Café	6月6日(火)	10
HUGwithファシリテーション協会@中央福祉協会	6月25日(日)	2
「防災ゲームDay2017そなエリア東京」ダイレクトロード	7月2日(日)	15
HUGwith高校生@南平高校	7月18日(火)	3
カエルキャラバンin一小	7月22日(土)	2
HUGin平山自治会	7月23日(日)	2
子ども向けHUG@三沢中	7月30日(日)	2
日野市民フェア【防災活動(カエルキャラバン・防災すごろく・防災ビンゴ)を通じて地域の子供たちとの交流を図る】	10月15日(日)	10
平山小学校 ジュニアHUG	10月20日(金)	3
滝合小学校 イザ!カエルキャラバン!	10月21日(土)	2
中央大学附属中学校 チーム防災による授業(中学1年生170名)	10月27日(金)	7
備蓄食品学内配付	11月20日(月)~11月24日(金)	13
日野市ひばりが丘自治会【DIG訓練(災害想定ゲーム水害Ver)訓練】	11月26日(日)	5
平山苑自治会 黄色いハンカチ運動	11月26日(日)	10
「アントレプレナーシップ論(月2・木4)」田中瑠海さん	12月7日(木)	61
日野市総合防災訓練 イザ!カエルキャラバン!	12月9日(土)	4
BOSAI Café	12月11日(月)	8
「チーム防災」学生会所属学生防災訓練	12月7日(木)	81
「チーム防災」教職員防災訓練	3月9日(金)	24
【外部イベント】		
大学生ボランティア活動報告&防災イベント	2月14日(水)~18日(日)	58
Gakuboシンポジウム	2月10日(土)~11日(日)	5
合計		929

12. 協定・助成金

(1) 協定

- 2014年3月12日「日本財団学生ボランティアセンター」との間で「学生ボランティア活動推進」に関する協定の締結

(2) 助成金

- Yahoo!基金 夏休み「学生ボランティア」被災地復興活動支援助成プログラム
支援先：
 - はまぎくのつぼみ 200,000円（交通費、物品費）
 - はまらいんや 184,360円（交通費）
 - 面瀬学習支援 200,000円（交通費、物品費）
- 赤い羽根 災害ボランティア・NPO活動サポート募金「ボラサポ・九州」（第4次）
支援先：中央大学ボランティアセンター（チームくまもと）
応募金額：882,485円（消耗品、専門家への謝金、委託費、旅費）
助成期間：2017年4月1日～2018年3月31日

13. メディア掲載

1. 大学関係広報誌

(1) 草のみどり

- 東北・熊本で、春ボラを行いました（7月号）
 多摩キャンパス周辺でも、地域活動に参加しています（7月号）
 被災地支援活動への参加経緯と2年間の活動を振り返る
 田中 瑠海 商学部経営学科3年（7月号）
- 多くのニーズに応えられるような講座を行っています（9月号）
 女川の魅力 岩立 文香 文学部人文社会学科3年（9月号）
- 東北・熊本、多摩地域で、夏ボラを行いました（11月号）
 災害救援ボランティア講座を行いました（11月号）
 まちづくりボランティア～地域と中大生～ 森 春菜 法学部法律学科3年（11月号）
 外部から表彰・助成金をいただきました（1月号）
 被災地支援活動を地域防災活動につなげて
 青野 大志 経済学部公共・環境経済学科4年（1月号）
- この冬も各地で支援活動を実施しました（3月号）
 被災地支援活動を通じて自分と向き合った4年間（3月号）
 松本 紗季 法学部法律学科4年
 吉田 沙織 法学部法律学科4年
 志賀 未希 文学部人文社会学科4年

(2) 中央大学学員時報

- 学員に伝えたい 現役学生の社会貢献活動 チーム防災
 ボランティアをしている学生からのコメント 白門支援金事業
 平成29年度 学員会会長賞

(3) 中央大学新聞 第1261号

- 被災地ボランティア 中大生もあの日を忘れない
 中大生が考える震災 被災地の現状とは

2. 新聞記事・広報誌等

福祉のつどい&ボランティア交流会 受賞者の声「チーム防災」

日野ボランティア・センター 6月号

被災地支援団体が岩手県で交流会を開催

蛍雪時代 キャンパスNews

協働団体紹介 中央大学ボランティアセンター

ひの市民活動団体連絡会ニュース 47号

防災・減災シンポジウム「チーム防災」

ひの社協だより 227号

学長×学生 対談 「被災地支援ボランティアを通して自ら考え、成長する中大生たち」

福島民報_10月27日、岩手日報_10月27日、河北新報_10月29日

みんなといっしょの運動会活動報告 日野市ボランティアセンター

info11月号

被災者と憩いのひととき 宮古で中央大生 フォトフレーム作り

岩手日報 12月27日

東北復興支援の成果報告

読売新聞 2月18日

設立5周年シンポ 5年間の成果を発表3月16日

全私学新聞 2月23日

★掲載: 福島民報_2017年10月27日、岩手日報_2017年10月27日、河北新報_2017年10月29日

中央大学 ボランティア活動



**多様な活動と
充実したサポート環境**

中央大学は、大規模なボランティア活動の推進を目的として、ボランティアセンターを設立し、学生が主体的に活動できる環境を整えています。また、専門的なスキルを身につけたい学生のために、様々な専門分野のボランティア活動を提供しています。

学長 対談

被災地支援ボランティアを通して 自ら考え、成長する中大生たち。

「ボランティア活動を通じて、自分自身を成長させたい」という学生たちの思いが、社会に貢献するきっかけとなっています。中央大学は、学生が主体的に活動できる環境を整え、社会貢献の機会を提供しています。

中央大学ボランティアセンターのあゆみ

2011年3月11日の東日本大震災発生以降、学生部で組織的に被災地支援ボランティア活動を行う学生を支援し、2012年10月に被災地支援学生部としてスタート。10年経ち、活動の場も広がる中、現在は、被災地支援学生部の一部を構成し、2014年「ボランティアステーション」から「ボランティアセンター」に改称。教員がセンター長を務め、コーディネーター2名、専任職員1名が従事。被災地支援に力を入れている。少人数制のボランティア活動の推進を図る活動として、様々な取り組みを行っています。

「知識・技能」だけでなく「ボランティア活動」も推進。

中央大学 学長 吉田 沙織さん
Yoshida Sae

中央大学 副学長 今野 陽介さん
Imano Hironori

中央大学 学長 酒井 正三郎教授
Sakai Masaharu

中央大学 学長 寺崎 友莉さん
Terazaki Yuriko

14. 作成物掲載

1. 刊行物

2016年度版ボランティアセンター報告書
ボランティアセンター公認学生団体紹介冊子
ボランティアセンターリーフレット
CVCだよりVol.8

2. ポスター・チラシ

クリーン大作戦・春の陣
クリーン大作戦・秋の陣
ボラカフェ
公務員になりたい人のためのボランティア講座
プレーリーダー研修
傾聴講座
村井雅清氏、神戸から始まった災害支援に取り組んだ22年間
地域発見！公務員と巡る五感で感じるバスツアー
ボランティア写真展
キャンパスライフ体験会
春休み 一歩踏み出したいアナタのためのボランティア講座
大学生ボランティア活動報告&防災イベント

15. ボランティアセンター組織規約

中央大学ボランティアセンター及びボランティアセンター運営委員会設置要綱

(設置)

第一条 中央大学学生部内にボランティアセンターを置く。

(目的)

第二条 ボランティアセンターは、中央大学学生のボランティア活動を促進し支援することを目的とする。

(センター長)

第三条 ボランティアセンターにボランティアセンター長を置く。

2 ボランティアセンター長は、本学専任教員の中から、学生部長の推薦に基づき学生部委員会に諮って、学長が委嘱する。ただし、学生部長は、推薦に先立ち、当該専任教員が所属する学部長又は大学院研究科長と事前に協議するものとする。

3 ボランティアセンター長の任期は二年とし、再任を妨げない。

(運営委員会の設置)

第四条 中央大学学生部内に中央大学ボランティアセンター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会は、第二条の目的にのっとり、ボランティアセンターの運営について審議決定する。

(運営委員会の構成)

第五条 運営委員会は、次の者をもって構成する。

- 一 ボランティアセンター長
- 二 学生部委員の互選による者一人
- 三 各学部教授会で互選した者 各一人
- 四 学生部事務長及び学生課長
- 五 学生部長が指名する者 若干人

2 運営委員会は、必要に応じ、委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

(運営委員長)

第六条 運営委員会の委員長は、ボランティアセンター長をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、前条第二号及び第三号の委員の互選により、その代行者を定める。

3 委員長は、運営委員会を招集し、議長となる。

(運営委員の任期)

第七条 第五条第一項第三号に定める委員の任期は二年とし、再任を妨げない。

(運営委員会の任務)

第八条 運営委員会は、第二条の目的を達成するため、次の事柄について検討し、必要な施策を実施する。

- 一 中央大学学生によるボランティア活動の促進と支援
- 二 ボランティア活動に関連する正課教育や関係部課室との連携
- 三 その他、目的達成のために必要な施策

(事務所管)

第九条 運営委員会に関する事務は、学生部事務室学生課が所管する。

附則 この要綱は、平成二七年四月一日から施行する。

2017年度ボランティアセンター運営委員

区分		所属	氏名
一号委員	ボランティアセンター長（運営委員長）	法学部	中澤 秀雄
二号委員	学生部委員の互選による	法学部	西 亮太
三号委員	各学部教授会で互選した者	法学部	平山 令二
		経済学部	丸山 佳久
		商学部	中村 亨
		文学部	山科 満
		理工学部	田口 善弘
		総合政策学部	岩田 重則
四号委員	学生部事務長	学生部事務室	山ノ井 和哉
	学生課長	学生課	石橋 敦史
五号委員	学生部長が指名する者	学生課	開澤 裕美

2017年度ボランティアセンター公認学生団体 顧問

はまぎくのつぼみ	文学部	山科 満
	法学部	小室 夕里
	文学部	吉野 朋美
はまらいんや	法学部	中澤 秀雄
面瀬学習支援	法学部	西 亮太
チーム女川	文学部	大川 真
チーム防災	法学部	中澤 秀雄
チームくまもと	法学部	平山 令二
	法学部	宮本 航平
りこボラ！	理工学部	田口 善弘

ボランティア情報の取扱いに関する方針

中央大学ボランティアセンターでは、以下に該当する募集团体の活動を、学内掲示板、ファイル閲覧、ML、コーディネーターによる相談業務を通じて、学生に広くボランティア活動の情報提供をしております。

- 1) 公益性・公共性が高い活動
- 2) 営利を目的としない活動
- 3) 活動にあたり、安全性が高いと判断される活動
- 4) 受け入れた学生に対し、教育的に配慮を伴った対応をする活動

つきましては、下記項目に同意の上、情報提供いただけますようご理解のほどお願いいたします。

なお、情報提供にともなってなされた一切の行為とその結果については、参加者募集を希望した団体において責任を負っていただけますようお願い申し上げます。

情報提供につきましては、中央大学ボランティアセンターで所定の審査のうえ決定いたします。提供の可否または提供予定日についてはご連絡いたしませんのでご承知おきください。また、学生の自主的な思いで活動を選択することになりますので、募集をしました件につきまして活動者が必ず見つかるとは限りませんのでご理解ください。

御団体から提供いただきました個人情報につきましては、中央大学ボランティアセンターにて活動情報の提供の目的にのみ使用させていただきます。

1. ボランティア募集の受付

- ▶ ボランティアセンターに電話・E-mail等で情報募集チラシ等の設置、募集内容についてご連絡ください。受付時に簡単な聞き取り調査をさせていただきます。
- ▶ ボランティアセンターから、E-mailもしくは郵送で「団体登録票」をお送りします。
- ▶ ご記入いただいた「団体登録票」と一緒に、団体概要パンフレット、担当者の名刺、情報募集チラシ等を郵送、もしくはセンターに直接お持ちください。
- ▶ 登録完了後、ボランティアセンターにて、お預かりしたボランティア情報をポスターやチラシ等で周知します。

2. ボランティア募集を行う団体・活動の選定基準

- 1) ボランティア募集を行う団体の範囲
活動分野や範囲、法人格の有無は問いません。
例) ボランティア・市民活動団体（任意団体、NPO）、社会福祉法人、医療法人、学校法人、社団法人や財団法人等の公益法人、国や地方自治体、独立行政法人、国連機関、大使館、企業（非営利による社会貢献活動に限ります）、労働組合など
- 2) ボランティア募集团体の受入れ体制について
 - ✓ ボランティアの募集や受入れの担当者が明確であること
 - ✓ 有償活動とボランティア活動を明確に区別していること
- 3) 以下に該当するボランティア活動は、受付できません
 - ✓ 政治的・宗教的活動に関する内容の場合。特定の政治組織や宗教団体への加入を強要・勧誘するような活動に関する内容の場合
 - ✓ 日本国または国際法上の法令に抵触する場合
 - ✓ 公序良俗に反する、または犯罪的行為を誘発するおそれのある内容の場合
 - ✓ 第三者に損害または不利益を与えたり、第三者を誹謗中傷する場合
 - ✓ 情報が虚偽または誇大の内容の場合

15. ボランティアセンター組織規約

- ✓ 情報に関する責任体制が明確でない場合
- ✓ 精神的・肉体的苦痛が心配される場合
- ✓ 水泳監視・ベビーシッター・病人の介護等の人命にかかわることが予想される場合
- ✓ 車の運転が活動の内容に含まれる場合
- ✓ 宿泊を伴う場合（キャンプボランティアなど、適切に夜間睡眠が確保される場合についてはこの限りではない）
- ✓ 本来有資格者によってなされるべき活動の場合
- ✓ その他不適当だと判断されたもの

3. ボランティア受入れ団体との申し合わせ

ボランティア受入れ団体と中央大学ボランティアセンターとは、以下の点を申し合わせ事項として確認いたします。

- ✓ 申込をした学生に対し活動内容や条件等を提示し、その内容について両者の間で合意の上、活動をはじめること
- ✓ 活動をはじめの前には、オリエンテーション等を実施し、活動に必要な情報や留意点をあらかじめ伝達し、活動がはじまった後は、必要に応じて研修や支援等をおこなうこと
- ✓ ボランティア活動中は、各団体ボランティア担当スタッフとともに活動をおこなうこと
- ✓ 申込をした学生が適切なボランティア保険に加入済みであることを確認してから活動を始めること。ボランティア保険に未加入の場合は、申込を受け付けないこと
- ✓ 活動時間は、休憩を入れて1日8時間、週28時間を超えないこと（外国人留学生の資格外活動における就労時間に準拠）
- ✓ 夜10時以降の深夜活動をさせないこと

4. 免責

ボランティアセンターで紹介するボランティア情報に関して、発生したトラブル等に対してセンターでは責任を負いかねます。予めご了承ください。

以上

2017年度 中央大学ボランティアセンター報告書

発行	2018年6月27日
発行者	中央大学ボランティアセンター 〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1 Tel: 042-674-3487 Fax: 042-674-3469 E-mail: chuo_volunteer@tamajs.chuo-u.ac.jp http://www.chuo-u.ac.jp/usr/volunteer/
印刷	明誠企画株式会社



発行日 2018年6月27日
発行者 中央大学ボランティアセンター